

## 資料I

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議  
(第5回)

2024年3月22日(金) 10:00-12:00

# 学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループ の進捗報告

# 学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループについて

## 1. 検討事項

- (1) 新しい時代の学びを実現する学校施設の具体的な整備事例と教育上・生活上の効果について（ウェルビーイングの観点も含む）
- (2) 学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備について
- (3) その他

## 2. 委員

赤松佳珠子	法政大学デザイン工学部建築学科教授
座長 伊藤 俊介	東京電機大学システムデザイン工学部教授
垣野 義典	東京理科大学創域理工学部建築学科教授
金子 嘉宏	東京学芸大学教育インキュベーションセンター教授
小林 生吉	北海道中頓別町長
高橋 純	東京学芸大学教育学部教授
長澤 悟	東洋大学名誉教授
林 立也	千葉大学工学部総合科学科准教授
古谷 正人	千葉県柏市教育委員会学校教育部教育施設課長
毛利 靖	茨城大学教育学部教授
山崎 亮	関西学院大学建築学部教授
(特別協力者)	
藤井 淳志	国立教育政策研究所文教施設研究センター総括研究官

全ての子どもたちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿(イメージ図)

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

- 学び 〰 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する
- 生活 〰 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現する
- 共創 〰 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現する

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

- 安全 〰 子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現する
- 環境 〰 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現する

# 学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループについて

## 1. 検討背景

- 子供たちの学びや生活がどのように豊かになるのか、具体的な事例から効果を収集・分析し、広く発信することが求められている。

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」（令和4年3月）学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

- 令和5～9年度を計画期間とする「教育振興基本計画」（令和5年6月16日閣議決定）では、2040年以降を見据えた総括的な基本方針として、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられている。

## 2. 実施内容

新しい時代の学びを実現する学校施設を具現化するため、ウェルビーイングの観点も考慮し、具体的な整備事例を収集する。その際、当該学校施設による教育上・生活上の効果を検証する。学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の観点から、プロセスも事例収集する。

<ウェルビーイングの観点>

- ・開放的協調性と多様なつながり（柔軟で創造的な学習空間、地域や社会と連携・協働する共創空間、複合化など）
- ・教師のウェルビーイングの確保
- ・ICTを活用し、一人一人の状況やニーズに応じたよりよい教育環境の実現
- ・安全・安心な環境

## 3. 成果イメージ

新たな時代の学びを実現する学校施設の整備事例と効果、学校づくりのプロセスをまとめた「ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（仮）」を作成。

# 学校施設の質的改善・向上に関するワーキンググループ 開催状況

## 第1回（2月27日（火）15:00-17:00）

### ◆事例紹介

- ・ 教育環境研究所 野島直樹氏

## 第2回（4月27日（木）15:00-17:00）

### ◆次期教育振興基本計画について

- ・ 総合教育政策局政策課

### ◆効果検証について

- ・ 垣野義典委員
- ・ 林立也委員
- ・ 施設企画課

## 視察（6月13日（火））

東京学芸大学附属竹早小学校・竹早中学校

## 第3回（6月26日（月）14:00-16:00）

### ◆生活の場としての学校施設について

- ・ 岐阜県岐阜市立草潤中学校（不登校特例校）
- ・ 奈良県香芝市教育委員会（だれでもトイレ）

### ◆視察報告について

## 第4回（8月3日（木）10:00-12:00）

### ◆共創の場としての学校施設について

- ・ 小林生吉委員
- ・ 国立教育政策研究所文教施設研究センター  
（対話を通じた新しい学校空間づくりのプロセス事例紹介）

## 視察（8月24日（木）・25日（金））

広島県 府中市立栗生小学校、府中市立第一中学校、府中市立府中学園  
福山市立常石ともに学園、福山市立想青学園

## 第5回（8月29日（火）10:00-12:00）

### ◆学びの場としての学校施設について

- ・ 高橋純委員
- ・ 赤松佳珠子委員

### ◆視察報告について

## 視察（10月6日（金））

千葉県 柏市立田中北小学校、柏市立土小学校

## 第6回（10月16日（月）15:30-17:30）

### ◆共創による学校づくり・地域に開かれた学校の事例

- ・ 山崎亮委員

### ◆アイデア集についての議論

- ・ 生活・共創について

### ◆視察報告について

## 視察（11月14日（火））

茨城県 つくば市立みどりの学園義務教育学校

## 第7回（12月21日（木）15:00-17:00）

### ◆アイデア集についての議論

- ・ 学びについて

### ◆視察報告について

## 第8回（3月11日（月）10:00-12:00）

### ◆アイデア集についての議論

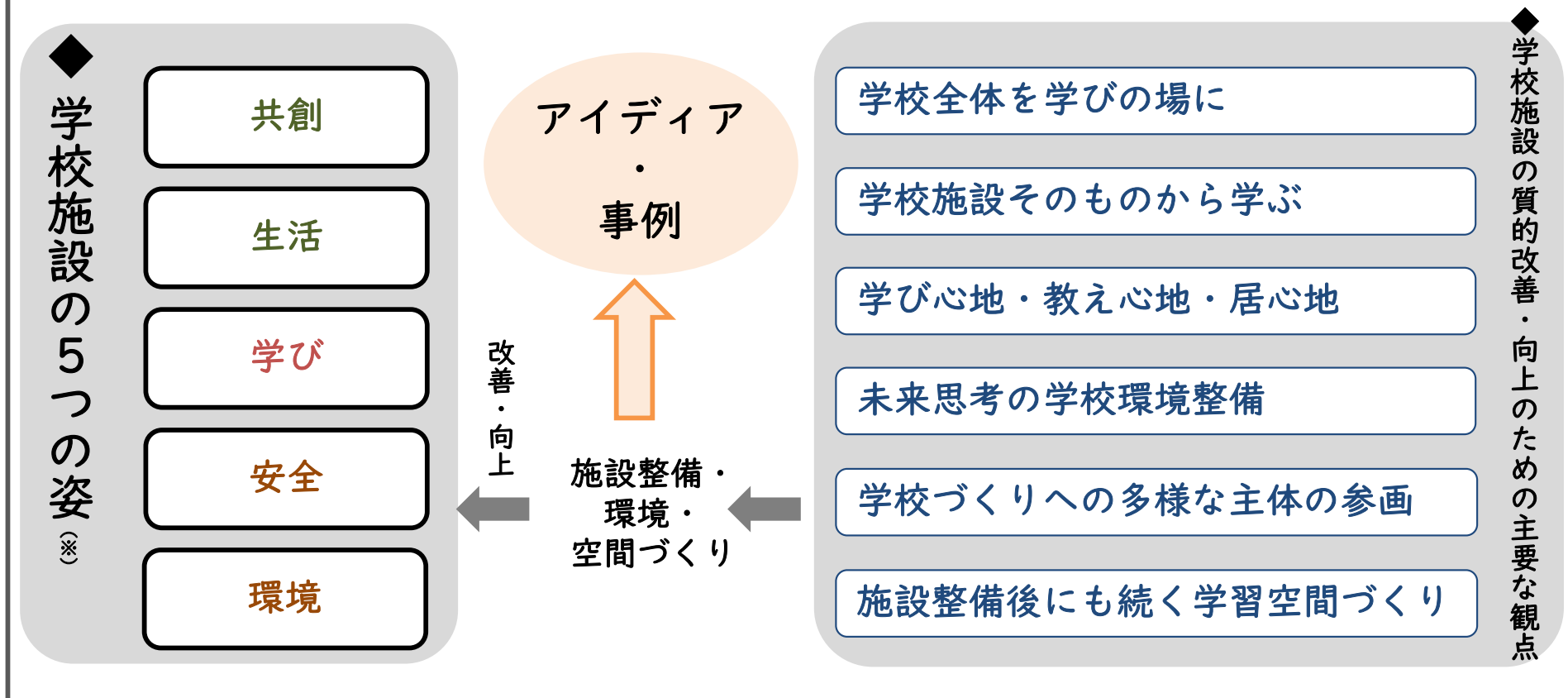
- ・ 項目案及びサンプルページについて

## 第9回（5月中下旬の予定）

### ◆アイデア集とりまとめ

# ウェルビーイングに向けた学校施設づくりのアイデア集（仮）の構成イメージ

## ① 施設整備、空間づくりの取組



## ② GIGAスクールの学習空間

## ③ 成果・効果の把握と検討

## ④ 児童生徒・教職員のウェルビーイング

(※) 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 最終報告」(令和4年3月)において掲げられた「5つの姿の方向性」

# 共創

## 共創-01 <学校は、地域や社会との共創の場になる>

### 共創-01-01\_コミュニティ・スクールの拠点になる場

地域とともにある学校づくりを推進する学校において、地域と学校が連携・協働して行う活動の拠点を設けるときのアイデア

- ・大規模改修時に地域開放エリアを再編

### 共創-01-02\_学校施設を地域住民が利用する

地域住民の日常利用を実現するためのアイデア

- ・ICT活用のセキュリティで地域利用促進
- ・夕方以降の主役は大人

### 共創-01-03\_学校内で社会人も仕事ができる

卒業生・企業・外部人材の居場所を学校内につくるアイデア

- ・地域・企業とつながる学校内のコワーキングスペース
- ・大学・地域企業が生徒と協働する空間『産学ブース』

### 共創-01-04 ICTで世界とつながる

ICTを活用することで、地域・他の学校・世界ともつながるためのアイデア

- ・デジタルとアナログの融合をかなえる特別な部屋。

## 共創-02 <児童生徒を様々な角度から支える>

### 共創-02-01\_部活動の地域移行を施設面でサポート

部活動の多様な運営・場所を想定したアイデア

- ・使用教室に応じた校内セキュリティの整理

### 共創-02-02\_専門スタッフの席が職員室にある

教職員以外の専門スタッフの居場所のためのアイデア

- ・スクールサポートスタッフの仕事場

## 共創-03 <自分たちで、教室を変える>

### 共創-03-01\_教室の改修プロセスに子どもたちが参加

子どもたちの意見を既存校舎のリニューアルに反映するアイデア

- ★生徒参加で余裕教室を未来型の学習空間に
- ・児童・地域住民の手で余裕教室をコミュニティルームに

## 共創-04 <対話を通じた学校空間づくり>

### 共創-04-01\_地域住民との対話

新しい学校の姿を多様な関係者の対話によって具体化していく際のアイデア

- ★コミュニティデザインの手法を活用し、住民参加型で「人生100年の学びの場づくり」に取り組む
- ・町全体で行った学校づくり、対話の記録と継承

### 共創-04-02\_教職員との対話

現在利用している学校空間の使い方を、教職員の対話によって検討する際のアイデア

- ★教職員と研究者の対話を通じたスペースの改造
- ・司書がハブになった図書館リニューアル

### 共創-04-03\_子どもたちとの対話

子どもたちの意見を取り入れた学校づくりのアイデア

- ・児童が選んだ壁紙
- ・どんなトイレにしたいか？生徒による『トイレ総選挙』

## 共創-05 <地域とのつながりを感じる校舎>

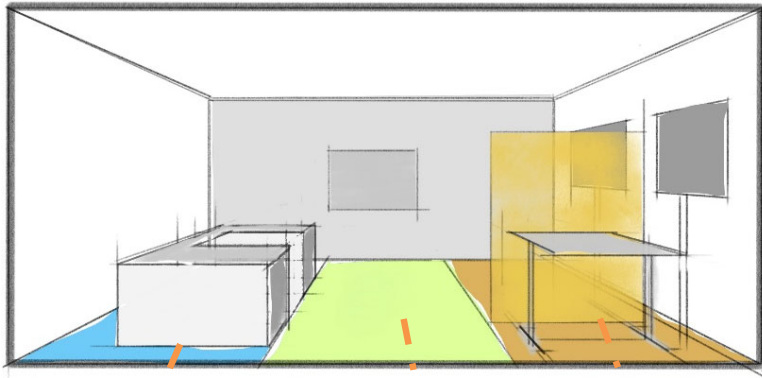
### 共創-05-01\_地域とのつながりを感じる校舎

学校施設自体が地域について学ぶ教材となるアイデア。

- ・木造校舎を活かした『木育カリキュラム』

## 生徒参加で余裕教室を未来型の学習空間に

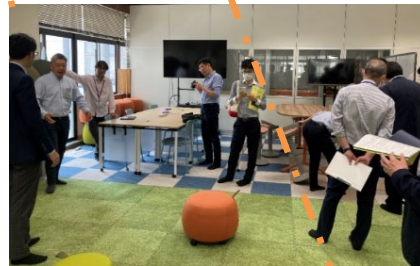
東京学芸大学附属竹早中学校 | 使いながら発展させていく、みんなで少しずつつくっていく、“進化する部屋”。



部屋のゾーニング



ワークショップの様子



新しいものを創造するスペース  
(カーペットのため、靴を脱いで使用する)



個人で仕事や学習ができるスペース  
(旧パソコン室の机や椅子を再利用)



人と協働するスペース  
(図書委員会で使用する様子)

### ① 場所の説明：

生徒参加で、「個・協・創」をコンセプトとした空間のリニューアルを実施。

### ② 実現プロセス：

#### ○ 地域事情

- ・教員の間で、パソコン室をより有用性の高い教室に転用できないかという検討が始まった。
- ・同時期に、生徒たち自身の『やりたい』という主体的な思いに基づいた活動を展開する実践研究を検討していた。
- ・他方、コロナ禍で学校行事や部活動などが制限される中、生徒たちの『もっといろんなことをやりたい』という思いをかたちにする機会をつくりたいと考え、生徒の活動拠点となる場所、創造性をかき立てられるような空間をつくること自体をプロジェクトにすることにした。

#### ○ 空間整備の狙い、利用や活動の様子

- ・“学校”や“教室”といった枠にとらわれないように、学校外の人の視点や発想も取り入れて相互補完したい・共創したいと考え、家具メーカーに相談し、空間のコンセプトを決めるためのワークショップを開催した。
- ・ワークショップでは、家具メーカーの社員がファシリテーターを務め、教員・生徒・外部の大人が3つのグループになって意見やアイデアを出し合って、コンセプトを設定。
- ・家具・備品・色味といった具体的な仕様を詰めた上で、生徒も一緒に予算内に収まるように調整。購入できなかったものは既存のものを利用するなど工夫した。
- ・床にタイルを敷くなど物理的に「作る」作業にも生徒が関わった。
- ・「個・協・創」をコンセプトとし、個人で仕事や学習ができるスペース、人と協働するスペース、新しいものを創造するスペースにゾーニングした。
- ・当初は総合学習での利用や、社会人がコワーキングスペースとして利用することを想定していた。今は、通常の授業での活用度合いが高い。
- ・普通の教室から移動してくることで、生徒たちに授業に向かう際のワクワク感が醸成されている。

## コミュニティデザインの手法を活用し、住民参加型で取り組む

(1/2)

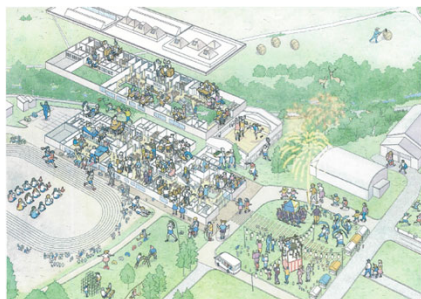
北海道中頓別町 人生100年の学びの場づくり | 中頓別町では、「3歳から15歳が学べる幼小中一貫の学校にとどまらない、人生100年時代において子どもから大人まで学びつづけることができる学びの拠点」を目指し、構想・計画の段階から住民参加型で検討を進めた。

### ① 場所の説明、実現プロセス

- ・中頓別町は、人口はコンパクト（約1,550人）で町民は顔見知りの間柄である一方、最寄りの駅や総合病院に行くためには車で町外に出る必要があるといった特徴のある自治体。町内に小中学校は各1校で、各学年1学級という規模。
- ・町として、地域の特性をいかし、幼児期からの自然と英語を柱にした教育に取り組んできた流れを受け、中学校校舎の老朽化をきっかけに、地域でどんな教育を実現したかという根っこの部分から、町の学校（小学校、中学校）及び公共施設（町民センター）の機能の在り方についての協議を進めることにした。
- ・基本計画策定に向けて、コミュニティデザインの手法を活用し、ヒアリング調査・勉強会・ワークショップなど、各プロセスにおいて、様々な住民参加の機会をつくった。

### コミュニティ・デザインとは

デザインの力を使って、地域の課題を地域に暮らす人たちが解決するよう支援すること。人がつながる仕組み作りや担い手育成などの「見えないデザイン」から、その中で生じたプロセスや成果を見える化する「見えるデザイン」まで多岐に渡る。



新しい学校のイメージ図

### <基本計画策定までの2年間の経緯>

#### 事前準備：

1年目の4月～ 事前調査・視察

1年目の6月 ヒアリング調査（町民・教職員を対象にヒアリング調査を実施。教育や学校づくりについての想いを聞いた。）

#### 企画段階：

1年目の8月～9月 勉強会（講師を招いた全3回の勉強会を開催。レクチャーを聞き、これからの教育について学んだ。）

1年目の10月～3月 ワークショップ（町民及び教職員ワークショップを開催。これからの町の教育や学校づくりについて意見交換をした。）

#### 計画段階：

1年目の3月 基本構想策定

2年目の8月～2月 協議会・ワークショップ（有識者を交えた協議会と併行し、町民・教職員ワークショップを開催。学びの場づくりの方向性やアイデアを話し合った。）

2年目の3月 基本計画策定

併行して、庁内会議においても検討を行った。

#### ○ 空間整備の狙い

- ・教室は、フレキシブルな大小の教室と部屋を連携して計画し、多人数の協働的な学びと少人数の個別最適な学びの実現を目指す。また、オープンスペース等と部屋を連携させ、主体的で対話的な学びの場を作り、多様な学びと柔軟な運用を可能にする。
- ・「学びの広場」は、四方から子供も大人も学びの広場に集まるように計画する。内部には小部屋や対話や交流のスペースなどが計画され、本や人との対話から学び、自分の好きなことが見つかり、誰かとやってみる場になる。
- ・特別教室やスタジオを学びの広場（町立図書館及び学校図書館）に面するように一体的に計画し、児童生徒と町民が日常的に使える共創の場とする予定。
- ・準備室の学びの広場側には、書籍や道具、みんなの作品などを展示する予定。



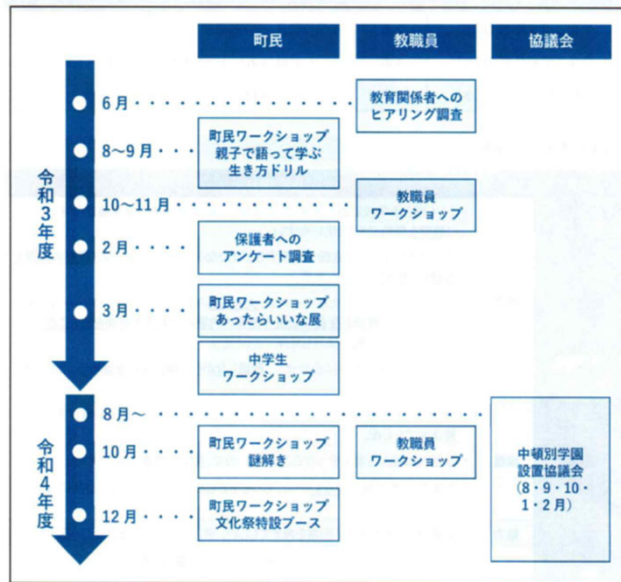
## コミュニティデザインの手法を活用し、住民参加型で取り組む

北海道中頓別町 人生100年の学びの場づくり | 中頓別町では、「3歳から15歳が学べる幼小中一貫の学校にとどまらない、人生100年時代において子どもから大人まで学びつづけることができる学びの拠点」を目指し、構想・計画の段階から住民参加型で検討を進めた。

### ② 実現プロセス：

#### ○ 地域事情

- 基本計画～基本設計を検討する段階で、展覧会形式・オンライン形式・対面形式など、社会の状況や目的に応じて、様々な形でのワークショップを実施した。



#### ○ 利用や活動の様子（予定）

- 学校が完成した時に、町民が違和感無くその場で活動ができるように、設計や工事をやっている間もワークショップを続けていく。子どもも大人も含めて、様々なチーム（映画チーム、手芸チーム、食チーム、カフェチーム、進路・町営塾チーム）を作って、開校後の活動についても仕組みを作り上げていっている。



展覧会形式のWS

(2/2)  
新しい学校づくりに関するパネル展示、およびこれまでに出了意見、子どもたちが製作した作品を展示した。また来場者には、新しい学校にあったらいいアイデアを聞いた。誰かが残したアイデアにさらに上書きされるといったことも行われた。



親子で参加できるWS

親子で参加し、人生100年時代を生きる上で大事にしたい力について意見交換をした。



中学校の授業でのオンラインWS

授業の時間を利用して、オンラインでワークショップを開催した。中学生の現在の1日の使い方、理想の放課後の過ごし方についての意見を聞いた。



模型や図面を使った設計WS

基本計画がとりまとめ、基本設計の検討のフェーズに入ったら、模型や図面を使用して、町民参加型の設計ワークショップを対面開催した。

### 教職員と研究者の対話を通じたスペースの改造

東京都板橋区立板橋第十小学校 | 1学年 (3クラス) にひとつあるオープンスペースを、児童が探究的な学びの充実や日常生活で活用し、児童コミュニティの活性化を促すため、活用促進プロジェクトを実施した。

#### <活動実績/全体スケジュール>

1か月目:

オープンスペース活用に関する課題の洗い出し

- ・実施校へ行うインタビュー項目の作成、インタビューの実施、専門家との面談

2か月目:

オープンスペース活用に関する課題の洗い出し

- ・インタビュー結果の分析、そこからの課題抽出

ワークショップのデザイン

- ・ワークショップの構想の検討、オープンスペースのコンセプトの検討

3か月目:

ワークショップ①(場のコンセプト設定)の開催

- ・ワークショップに用いる備品の手配、オープンスペースのコンセプトの構成検討

WS事後アンケートの検討・作成

4~5か月目:

ワークショップ②(児童の行動設定)の開催

- ・板橋区立板橋第十小学校の教員を対象としたワークショップ開催

オープンスペース活用事例集策定

- ・事後調査実施・分析 / アンケート結果を踏まえ事例集を策定

#### ① 場所の説明:

1学年 (3クラス) で共有するオープンスペース (普通教室1つ分の広さ)。

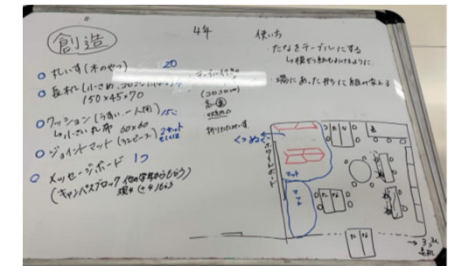
#### ② 実現プロセス:

○ 地域事情

- ・教員発信で、オープンスペースを児童が探究的な学びの充実や日常生活で活用し、児童コミュニティの活性化を促すため、オープンスペースの活用の検討が始まった。教員研究者 (アドバイザー) やワークショップファシリテーターの協力も得て、教員自らが空間をつくる当事者意識を持ち、オープンスペースの活用について検討した。
- ・発達段階に合わせたオープンスペースの活用方法を検討することができた。



各学年のオープンスペースの空間イメージを作成



各学年のオープンスペースに物品等を整備した様子

# 生活

健やかな学習・生活環境を実現する。

## 生活-01<心持ちにフィットする、学び心地・居心地の良い場所>

### 生活-01-01\_過ごしたい場所を選べる

心持ちに応じて、学習場所を選択することができるアイデア

★図書室を中心に、様々な過ごし方ができる場所がある

★生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」

・教室前の廊下にカウンターテーブル

・廊下のカウンターで勉強できる

### 生活-01-02\_ひとりにもなれる場所

休憩時間に過ごす場所のアイデア

・廊下に「DEN」やベンチがある

・廊下ひとり用ソファ

・図書室のテント

### 生活-01-03\_クラスへ入りづらい子も安心できる場

普通教室と別の場づくりのアイデア

★自分にあったペースで学習・生活できる場

・気持ちを切り替えることができる場

## 生活-02<ユニバーサルな環境整備>

### 生活-02-01\_誰もが利用しやすいトイレ

トイレのアイデア

・性別を限定しないトイレを用意

・様々な配置のトイレ

### 生活-02-02\_明快な動線計画

多様なニーズに配慮した教室配置のアイデア

・車椅子を使用する児童生徒の動線をコンパクトに

・教室までの道筋を直感的に認識しやすいように配置

## 生活-03<普通教室+αのクラスの拠点>

### 生活-03-01\_普通教室近くのクラスの拠点となる空間

普通教室とは別の荷物置きなどのスペースを確保することで、教室内での学び心地を高めるアイデア

・廊下と教室の間のロッカースペース

・教室の横のロッカールーム

・普通教室と多目的スペースの仕切りをホワイトボード付きロッカーに

## 生活-04<過ごしやすい室内環境>

### 生活-04-01\_自然の力も取り入れた明るい空間

温かみのある空間づくりのアイデア

・自然光を校内に取り入れる

・適温に導く校舎

⇒次ページへ続く

# 生活

健やかな学習・生活環境を実現する。

⇒前ページからの続き

## 生活-05<教職員・多様な専門職が心地よく働ける環境>

生活-05-01\_目的に応じて場所を選べる職員室  
職員室をフル活用するためのアイデア

- ・ひとりで集中作業をする場所や、立ったまま打ち合わせできる場所
- ・教職員の発案でフリーアドレスの職員室へ
- ・専門スタッフの居場所
- ・事務職員と教職員の連携がとりやすい配置
- ・教室近くでも教師同士の打ち合わせが可能

生活-05-02\_機能別の職員室  
職員室の機能を、校内に分散して設ける際のアイデア

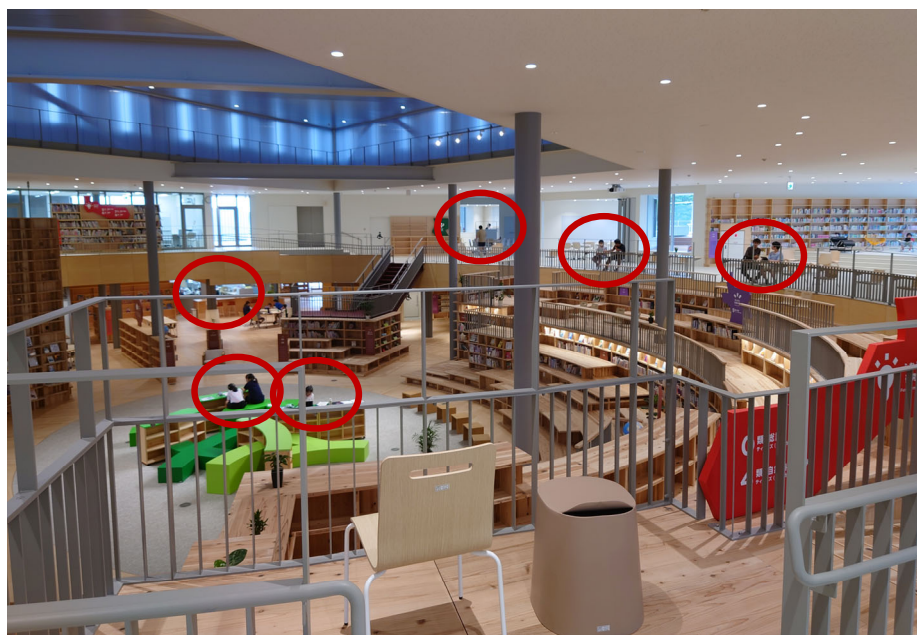
- ・教室の近くにある教職員スペース
- ・教科ごとの教職員スペース

生活-05-03\_教職員のくつろぎ空間  
環境を変えることで働き方を変えるアイデア。

- ★職員室内とゆるやかにつながる談話スペース
- ★教職員のリフレッシュ&リカバリーの間
- ・「職員室リノベーション」の実施

## 図書室を中心に、様々な過ごし方ができる場所がある

福島県大熊町立学び舎ゆめの森（認定こども園＋義務教育学校） | 学びの舎ゆめの森では、校舎が、特徴的な形の11のエリアによって構成されている。エリアの間を壁で分けることなく、わくわく本の広場を中心にしながら子どもたちが自由に学びをデザインできる環境づくりを目指している。



広場を囲むように、それぞれが選んだ場所で学習活動を進めている。



椅子の形状は様々で、移動式ホワイトボードもある。



本棚の下が児童生徒の学習の場となる。



タブレットを使った学習をしている様子。



集中して学習に取り組む様子。

### ① 場所の説明：

校舎の中心には、すり鉢状に大きな本棚が組み合わされ、1階から2階にかけて全体が大きな広場になっている。それぞれの本棚は、机や椅子にもなり、多様な学習・読書空間を生み出している。

### ② 実現プロセス：

#### ○ 地域事情

- ・東日本大震災後、福島県大熊町立学校は会津若松市で学校教育を行ってきた。
- ・2023年（令和5年）4月から大熊町の地で学校を再開し、8月25日から新しい校舎での学びが始まっている。
- ・施設には義務教育学校、認定こども園、放課後児童クラブが含まれている。

#### ○ 空間整備の狙い

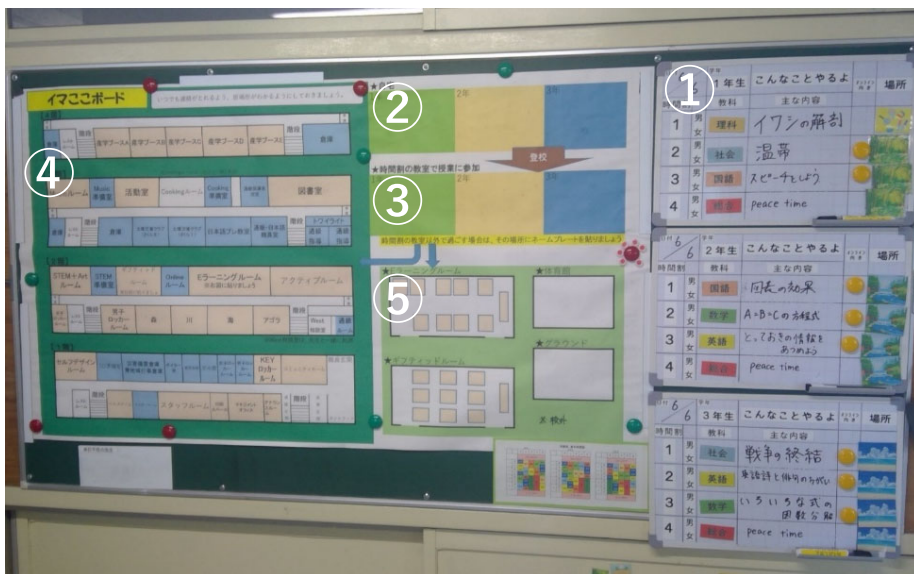
- ・「自分で学びをデザインできる多様性と混在が共にある、新しい教育空間」を建築コンセプトとした。

#### ○ 利用や活動の様子

- ・児童生徒と教師は、毎朝、その日の学習内容や心持ちに適した学習場所を話し合っている。

### 生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」

岐阜県岐阜市立草潤中学校 | 時間割に応じて、学習場所を個人で選択することができる。教室だけでなく個別ブースや自宅でも受講が可能。



「イマここボード」に磁石の名札を張り付け、生徒が自分の居場所を記しておく

#### ① 場所の説明：

廊下にある「イマここボード」で自分の居場所について知らせるといルール。

#### ② 実現プロセス：

○ 利用や活動の様子

- ・ 時間割は①の通り学年ごとに決まっている。全ての授業がオンライン配信されており、教室だけでなくどの場所も受講することもできる。一方で、誰がどこにいるのか把握が難しくなり、安全面で問題が出てきてしまうことも予想されるため、「イマここボード」を導入した。
- ・ 生徒は、「イマここボード」に磁石の名札を張り付け、自分の居場所を記しておく。登校したら、「②自宅」から、「③時間割の教室で授業に参加」もしくは、「④⑤校内の教室以外の場所」へ磁石の名札を移動させる。

#### ② 実現プロセス：

○ 地域事情、空間整備の狙い

- ・ 草潤中学校は、築40年の元小学校校舎（RC造4階建て）を改修して、不登校特例校（当時）として、開校した。
- ・ 校区は全市域が対象となるため、始まりは9時半。登校のスタイルは生徒自身が決めることになっている。オンラインでの家庭学習が中心でも、毎日登校でも、数日の登校でも、自由に選択することができる。

#### 居場所の選択肢の例



普通教室

2種類の生徒机や、パーテーションにもなる移動式のミニホワイトボードなどがある場。これまでの学校の教室とイメージを近づけないために、先進的なデザインを取り入れているオフィスの例等を参考にしながら選定した。



Eラーニングルーム

ブースで区画されているひとり用のスペースがある。



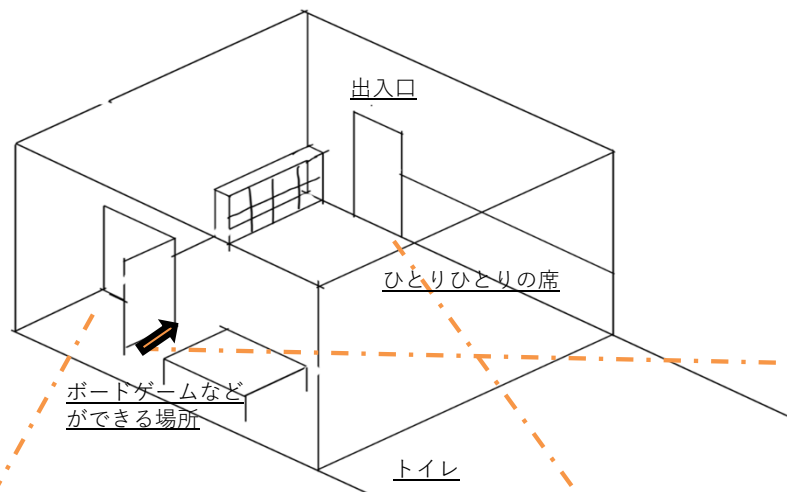
図書館

リラックスして本を読めるクッションやハンモック、他人の目を気にしなくてもよいテントやハイバックのソファもある場。

📍生活-01-02\_ひとりにもなる場所

### 自分にあったペースで学習・生活できる場

広島県府中市立第一中学校 | スペシャルサポートルーム (校内教育支援センター)  
では、各々が過ごしやすい場所を選ぶことができ、自分のペースで学習したり、教室とオンラインでつないで授業参加することができる。



仕切りを活用した  
ひとりになれる空間



ひとりひとりの席が決まっているが、  
座卓等は自由に使用することができる



スペシャルサポートルームの様子

#### ① 場所の説明：

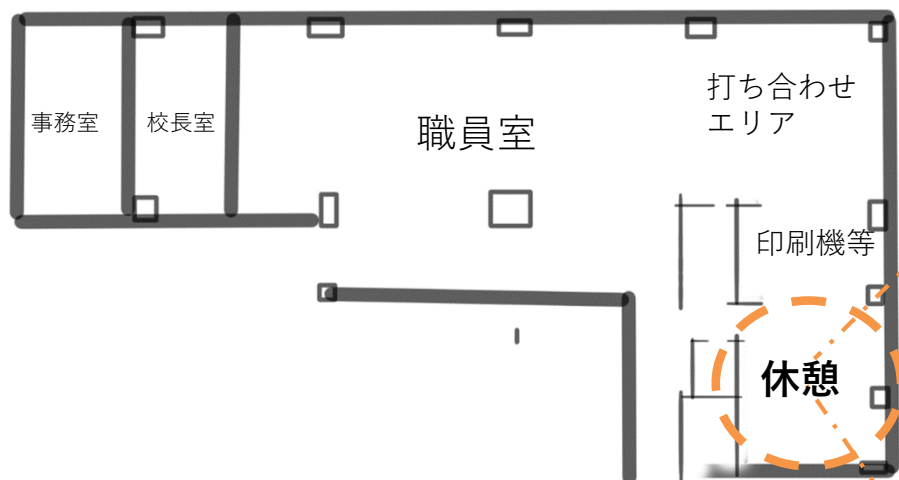
スペシャルサポートルームは、不登校生徒等が利用する場所。教員もおり、ひとりひとりの学びをサポートしている。

#### ② 実現プロセス：

- 地域事情
  - ・不登校や不登校傾向及び特別な支援が必要な児童生徒へ支援を行うスペシャルサポートルーム (SSR) を従来の特別支援教室をリニューアルして整備した。
- 空間整備の狙い
  - ・リラックスできるように、床をカーペットとしている。
  - ・家具を工夫して、過ごしたい場所・学びたい場所を選ぶことができるようにしている。
- 利用や活動の様子
  - ・ひとりひとりの席は決まっているが、座卓等はその時々気分に応じて使用することができる。

### 職員室内とゆるやかにつながる談話スペース

千葉県柏市立田中北小学校 | 職員室はL字の形をしており、執務机エリア、打ち合わせエリア、印刷機等の作業エリアと、休憩エリアが仕切ること無くゆるやかにつながっている。休憩エリアは職員のコミュニケーションの場にも、集中作業スペースにもなる。



平面図



作業の場所にもなる

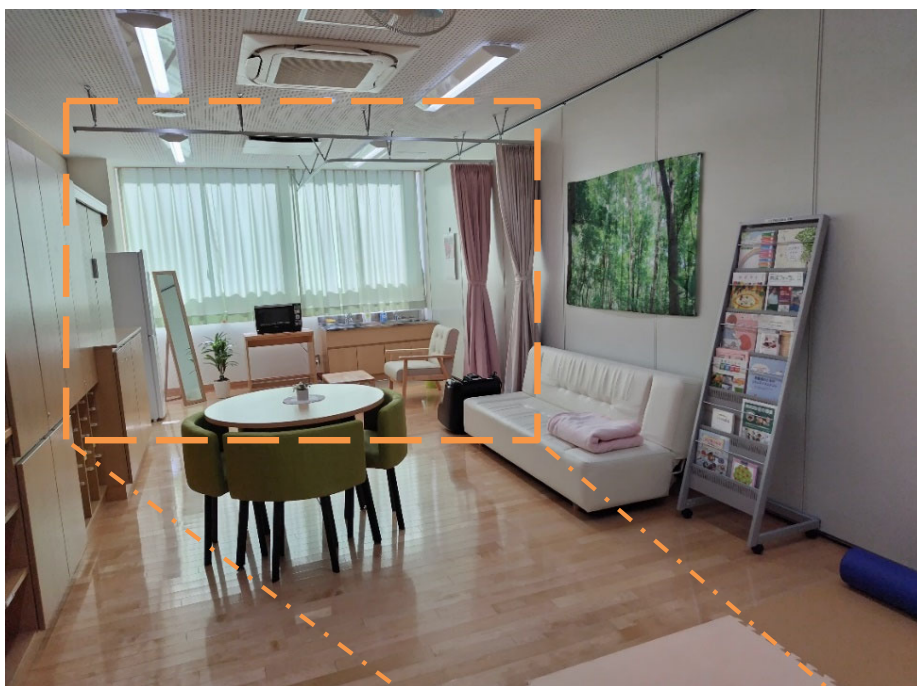


食事をとったり作業をする場合は、ソファではなく机と椅子の方が良い



## 教職員のリフレッシュ&リカバリーの間

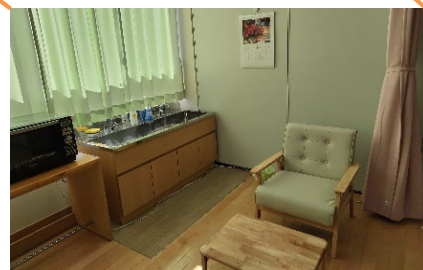
東京都八王子市立いずみの森義務教育学校 | 産休や育休明けの教職員のための搾乳スペースの機能のほか、一般の教職員も健康維持や健康回復、リフレッシュすることができるスペース。



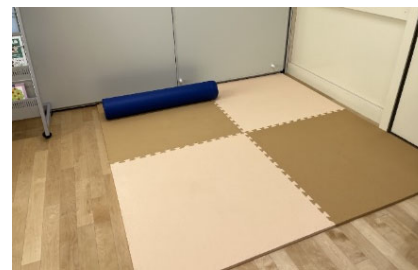
部屋の様子



冷凍冷蔵庫



搾乳時などはカーテンレールで仕切ることができる



横になれるスペース



備品（血圧計など）

### ① 場所の説明：

特別支援教室であった部屋を、リニューアルした。

### ② 実現プロセス：

○ 地域事情、空間整備の狙い

- ・教職員の職場環境を改善するため、「マザーズルーム」を作ることが決まり、教職員間で相談した上で、複数ある特別支援教室のひとつをリニューアルすることになった。
- ・事務職員が中心になり、厚生労働省のパンフレットも参考にしながら、衛生的で他人から見えないスペースの設置の仕方や、椅子・机・ソファ等の家具を選定した。

○ 利用や活動の様子

教職員には、以下のような利用方法を周知。

- ・体調不良時に、健康回復のため一時的に休息
- ・妊娠中の女性教職員が補食等で利用
- ・産後早期に復職した女性教職員が、搾乳スペースとして利用
- ・休憩時間に、リフレッシュのため利用
- ・その他、管理職が必要と認めた場合

○ アウトカム

- ・女性の教職員の働き心地が向上。教職員のライフステージの変化に対応し、男女共同参画を体現する施設にもなる。

# 学び

## 学び-01 <普通教室での個別最適な学びの環境づくり>

### 学び-01-01 ICTで複線型の授業を実現

1人1台端末や無線Wi-Fiが配備された普通教室を活用するアイデア

#### ★オープンな教室でICTを活用した複線型の授業を実施

### 学び-01-02 扉や壁を取り払う

扉や壁の工夫で、空間をゆるやかにつないで使用するアイデア

- ・学年担任制を助ける普通教室間の扉を設置
- ・普通教室とつながるオープンスペース

### 学び-01-03 教室の「正面」はひとつではない

黒板に向かって全員が同じ向きに机を並べるだけではない、多様な使用形態をとることができる普通教室のアイデア

- ・壁や扉もホワイトボードに
- ・ホワイトボード兼可動間仕切り

### 学び-01-04 家具で空間をつくる

既存校舎においても、家具配置を工夫するアイデア

- ・家具で境界線が浮かび上がる
- ・子どもたちの行動を誘導する家具

## 学び-02 <学び方をアップデートできる特別教室>

### 学び-02-01 ICTを活かす特別教室

1人1台端末や無線Wi-Fiが配備された特別教室を活用するアイデア

- ・壁一面に映す、書く
- ・手元を映すカメラで進める実践的な授業

### 学び-02-02 ICTを活用したものづくり

子どもたちが自由にものづくりをできる場のアイデア

- ・高性能PCや3Dプリンタを配置

## 学び-03 <様々な対話や発表の形に対応した空間>

### 学び-03-01 主体的な対話のための工夫

少人数・大人数、様々な対話の形に対応するためのアイデア

- ・対話中心の授業のための教室
- ・アクティブラーニングルームの家具は、人数に応じた組み合わせが可能

#### ★目的に応じて変幻自在に形を変えることができる広い空間

### 学び-03-02 発表・表現のステージ

- ・大階段がステージになる
- ・様々な創作活動の発表の場

## 学び-04 <あらゆる場所で、学びのきっかけに触れる>

### 学び-04-01 学びの刺激を与える展示

学校内のあらゆる場所に学びが配置されたアイデア

- ・教科教室の前のスペースに教科の関連物を展示
- ・メディアスペースを中心として各教科センターを立体的に展開

## 学び-05 <知に出会い、探究する>

### 学び-05-01 柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立

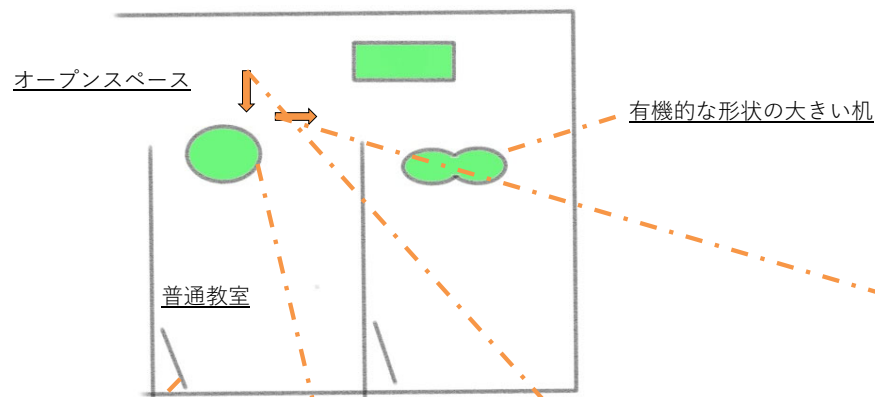
学習活動の中心になる図書室のアイデア

- ・図書館を中心に学校施設全体を計画
- ・屋外デッキに面した図書室は、子どもたちの居場所

#### ★図書室を柔軟な学びの場へ

## オープンな普通教室で、ICTを活用した複線型の授業を実施

富山県富山市立芝園小学校 | 建設から15年経過してなお、広い空間があることで、多様な学びのスタイルを実現できている。



一人用机だけでなく、複数人がものを広げて作業できる大型机がある。(普通教室のレイアウト図)



幅のある廊下=オープンスペース。

### ② 実現プロセス:

- 地域事情
  - ・芝園小学校では、一人一台端末とクラウド環境を活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXに取り組んでいる。
- 空間整備の狙い
  - ・多様な教育活動を可能とするオープンスペース型の普通教室に、ICT活用を視野に、子どもたちの活動内容に応じて活用できるテーブルやスクリーン等を追加で整備。
- 利用や活動の様子・アウトカム
  - ・大型ディスプレイやスクリーンを使った一斉指導のほか、子どもたち1人1人が自分のペースで集中して学んだり、自分の課題をより良くするために他の児童生徒と協働したりといった活動が非同期的に分散して現れる複線型の授業が展開されている。
  - ・協働的な学びが活発になるにつれて、子どもたちは最適な机や席を求め、オープンスペースを含めて思い思いに活動空間を広げていく。広い空間があることで、多様な学びのスタイルを実現できている。
  - ・複線型の活動がスムーズにできることで、学びの高速化（インプットとアウトプットの頻度と速度を高めること）につながっている。



大型ディスプレイに各自の作業状況を投影。



自分の課題をより良くするために協働する。



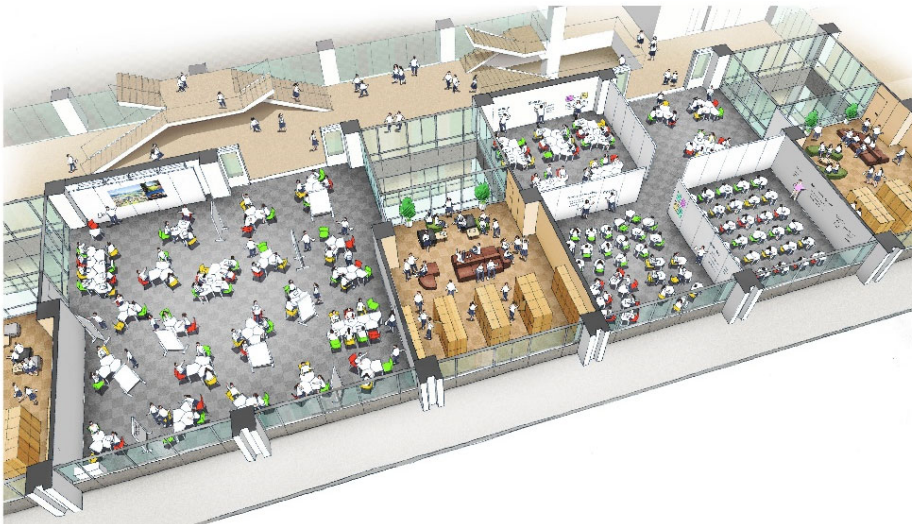
丸いテーブルは追加で整備。

### ① 場所の説明:

オープンスペース型の普通教室。日常的に、通常の一人用机だけでなく、数人で寄り合って作業できる大型机を配置している。

目的に応じて変幻自在に形を変えることができる広い空間。

京都府京都市立開建高等学校 | 開建高校では、生徒80人をひとつの学習単位とし、対話・協働に重点を置いた探究型の授業を実施している。普通教室4つ分の大空間を区切ることなく使用し、ひとつのテーマに対し、少人数のグループで考えたことを発表しあう場にもなる。



L-pod (ラーニング・ポッド) のイメージ図 (開建高校公表資料より)

① 場所の説明：

普通教室4つ分の大空間の教室 (L-pod)。

② 実現プロセス：

○ 地域事情、空間整備の狙い

- ・1クラス80人に対して3~4名の担任がつき、対話・協働に重点を置いた探究型の授業を実施している高校。
- ・普通教室4つ分の大空間を、目的や場面に応じて、可動式の机・椅子を動かし、ホワイトボードの可動間仕切りで部屋を区切ることができる。4つの教室に分けることも、ひとつの大空間として使用することも可能。
- ・音は、ワイヤレスマイク (ハンドマイク、ピンマイク) を使用している。天井の吸音などで、音はクリアに聞くことができる。

○ 利用や活動の様子

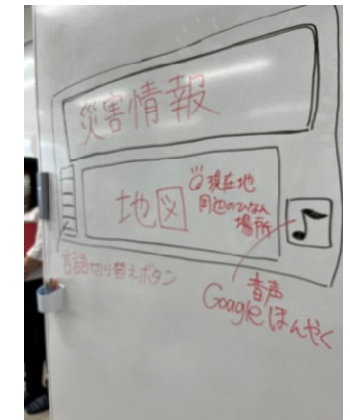
- ・探究型の授業では、ひとつのテーマに対して少人数のグループで考えたことを、発表する場では、机は無し、可動式の椅子を利用。グループごとの発表と、それに対してのクラスメイトの質問から、対話が生まれていく。
- ・壁側のホワイトボードで発表がスタートし、他のグループもそこからつなげるような形で板書をして発表をつなげていく。
- ・別の可動式ホワイトボードを発表の場として使用することも可能で、事前に板書準備をして、寸劇のようなプレゼンを実施するグループもあった。



探究型授業の発表の様子



教室の前面だけでなく、可動間仕切りもホワイトボードであり、発表に活用される



### 図書室を柔軟な学びの場へ

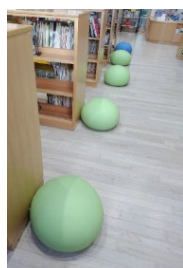
千葉県柏市立田中北小学校 | 子どもたちの日常動線となる中央階段、2階昇降口に面した位置に図書館（ラーニングセンター）を配置し、身近に本に触れることのできる環境。書架・閲覧コーナーは間仕切りを設けず、一体的な利用が可能。



ラーニング commons のイメージ図（柏市公表資料より）



書架・閲覧コーナーは吹き抜けになっている



様々な座席がある



思い思いの場で読書を楽しむ様子



授業を実施する様子

## 環境

### 環境-01<校舎の環境性能を教育に関連付けて活用>

#### 環境-01-01\_ZEBの校舎

ZEBの校舎が環境教育の材料になるためのアイデア

- ・校舎（Nearly ZEB）の取扱説明書となる運用マニュアル
- ・既存校舎も含めてZEB Readyを達成

#### 環境-01-02\_木材活用の校舎

木材活用の校舎が環境教育の材料になるためのアイデア

- ・貯木場という地場産業の木材を活かした校舎
- ・内装に木材を活用

#### 環境-01-03\_自然共生

気候風土を生かし、自然を取り入れた校舎のアイデア

- ・建物緑化
- ・屋外緑化
- ・自然素材の活用
- ・ビオトープ

### 環境-02<再生可能エネルギー活用>

#### 環境-02-01\_自然の力を活用

自然環境を活用するアイデア

- ・太陽光
- ・太陽熱

- ・風力
- ・地中熱
- ・バイオマス
- ・雨水

### 環境-03<良好な室内環境>

#### 環境-03-01\_熱環境

熱環境に注目して快適性を高めるアイデア

- ・断熱
- ・自然換気

#### 環境-03-02\_音環境

音環境に注目して快適性を高めるアイデア

- ・音の反響を抑える

#### 環境-03-03\_光環境

光環境に注目して快適性を高めるアイデア

- ・日よけ
- ・LED
- ・自然採光

# 安全

## ★ <コラム>和歌山県 串本町立くしもと小学校

### 安全-01<災害に対する安全性を確保する>

安全-01-01\_災害発生直後、円滑に学校施設に避難所を開設する  
学校施設の安全性を確保した上で、避難者を円滑に受け入れる

- ・ 防災担当の部署なども巻き込んだゾーニング計画
- ・ 地域住民の避難経路を確保した配置計画
- ・ キーボックス・電気錠の設置
- ・ バス発着所であり避難時の集合場所ともなる広場

### 安全-02<避難所として必要な機能を備える>

安全-02-01\_生命確保期及び生活確保期に特に重要な機能を備える  
教育活動を再開するまで、円滑に避難所を運営する

- ・ トイレ  
(断水時の洗浄機能を確保したトイレ、マンホールトイレの整備)
- ・ 情報通信  
(行政機関や自主防災組織との情報通信の確保、特設公衆電話等の確保、避難所等が利用できるWi-Fiの整備)
- ・ エネルギー・水  
(非常用発電機の確保、太陽光発電設備と蓄電池による電源確保、電源接続盤の整備、LPガスの災害時の活用、再生可能エネルギーの活用、耐震性貯水槽や浄水装置等による飲料水の確保)
- ・ 避難所の管理スペース  
(非常時の飲食料、防災備品の備蓄、避難時に使用できる荷捌きスペース)
- ・ 避難所の居住スペース  
(体育館の冷暖房設備、要配慮者の居住スペースへの配慮、外壁等の断熱化、バリアフリー化)

### 安全-02-02\_地域との連携

地域の防災力を教化する

- ・ 学校施設の利用計画の策定
- ・ 非常物資、設備の学校外からの支援体制
- ・ 地域防災力向上につなげている取組

## <コラム>能登半島地震

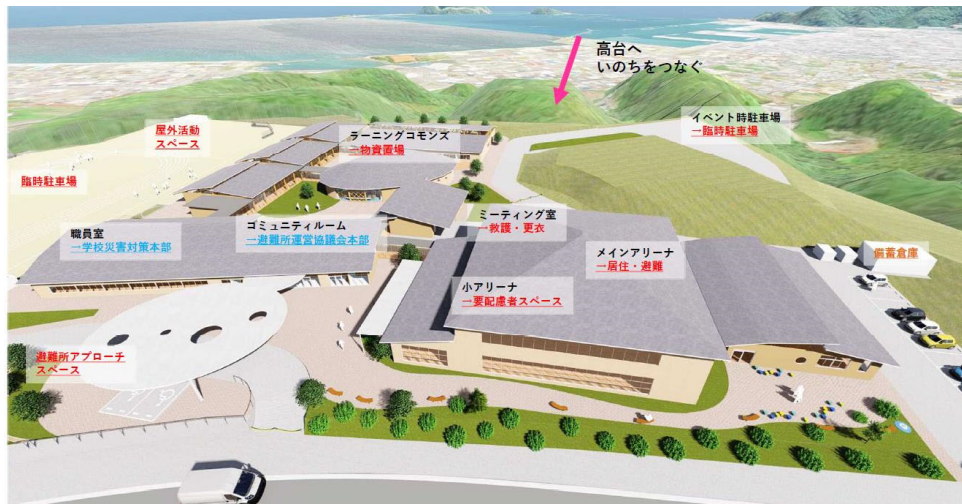
## <コラム>和歌山県 串本町立くしもと小学校

防災担当の部署なども巻き込んだゾーニング計画。串本町では、小学校2校を統合し、津波浸水想定区域から学区内の高台へ移転する。災害時には住民の避難場所・避難所となる小学校について、災害時の利用も含めて基本計画を策定した。

施設機能	最大想定人数	災害フェーズ			
		緊急避難期 ～避難直後	生命確保期 ～3日目	生活確保期 ～一週間	教育活動再開期 ～数か月
小学校	150人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 滞在者の安全確保</li> <li>・ 情報収集・提供</li> <li>・ 連絡・引き渡し</li> </ul>	休校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備復旧</li> <li>・ 施設点検</li> <li>・ 再開準備</li> </ul>	
学童保育	20人 (100人)				
地域開放					
緊急避難場所	500人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一時避難</li> <li>・ 物資提供</li> <li>・ 住民以外の避難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所開設・運営</li> <li>・ 最低限の生活確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難者の個別ニーズへの対応</li> </ul>	
避難所	300人				

※体育館は1000㎡で仮置き  
避難場所 2㎡/人  
避難所 3㎡/人  
※串本地区の避難人口  
約3,200人+一時滞滞在者  
※備蓄基準  
自治体・県・国で1日ずつ  
※昼間人口比率98% (R2)

備蓄物資の目安 3日間 電源等のライフラインの随時復旧  
災害フェーズと各機能に求められる役割



フェーズ1：避難直後イメージ

### ① 場所の説明：

本計画は、小学校2校を統合するとともに、津波浸水想定区域から学区内の高台へ移転する施設整備計画。

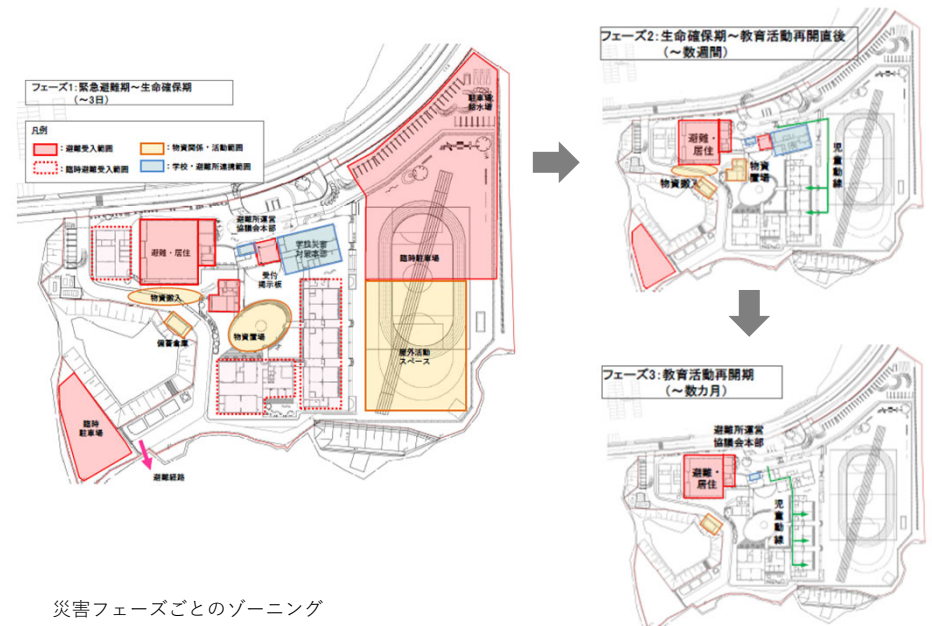
### ② 実現プロセス：

#### ア) 地域事情

- ・ 南海トラフ地震に備え、串本町では、東日本大震災の教訓を踏まえ、公共施設を高台に移転する構想を立て、これまでに、病院、消防署、役場庁舎、こども園等を整備してきた。今回の小学校の高台移転もこの構想の一つとして進められている。(令和8年(2026年)4月開校予定)
- ・ 小学校施設の基本計画の内容を検討するにあたり、教育委員会・学校・保護者・地域に加え、地域防災の専門家や、防災担当の部署も参画した。

#### イ) 空間整備の狙い

- ・ 災害時に小学校は避難場所・避難所として利用されるが、学校の本来の機能は子供たちに教育を行うことであり、学校の業務継続は重要。教育活動の継続・早期再開を見据え、教育エリアは避難エリアとは分けて置く必要があるという観点から検討を行った。
- ・ 通常の利用時の地域開放エリア(体育館、ラーニングcommons)を避難所として利用するエリアとしてゾーニングした。



災害フェーズごとのゾーニング



## 取組のステージと参画のマッピング【検討案】

一般的な場合

- 改修・新築段階でなくとも可能
- 取り組み範囲と参画者の多様性・可能性
- 施設整備に終わりはしない

施設整備の内容	長期計画的 専門業者	構想・計画・設計・施工				使いはじめ 使いこなし カスタマイズ			改修 建替			
建築工事		→							→			
内装・設備工事		→							→			
家具・教室レイアウト				→					→			
家具・什器を変える					→				→			
DIYで変える							→					
関係者・参加者	学校	自治体	●	●	●					●		
		設計者	●	●	●	●					●	
		大学・研究者	△	△								
		校長		●	●	●	●		●	○	●	
		教職員		△	△	△	●		●	○	●	
		児童生徒					●		●	○	△	
		保護者					○		○		△	
		地域	地域の関係者					△		△		
			施設利用者					△		△		
			地域住民全般									

## 取組のステージと参画のマッピング【検討案】

- 改修・新築段階でなくとも可能
- 取り組み範囲と参画者の多様性・可能性
- 施設整備に終わりはしない

施設整備の内容	長期的 計画的 専門業者  ↑ ↓ 短期的 実践的 現場	構想・計画・設計・施工				使いはじめ	使いこなし	カスタマイズ	改修	建替	
		建築工事	→							→	
		内装・設備工事	→							→	
		家具・教室レイアウト					→			→	
		家具・什器を変える					→			→	
		DIYで変える					→				
関係者・参加者	学校  地域	自治体	●	●	●				●		
		設計者	●	●	●	●			●		
		大学・研究者	△	△							
		校長	●	●	●	●	●	●	○	●	
		教職員	△	△	△	●	●	●	○	●	
		児童生徒	中頓別町 全町が構想から参加			●	●	●	○	△	
		保護者	中頓別町 全町が構想から参加			○	○	○	○	△	
		地域の関係者	中頓別町 全町が構想から参加			△	△	△			
		施設利用者	中頓別町 全町が構想から参加			△	△	△			
		地域住民全般	中頓別町 全町が構想から参加								

## 取組のステージと参画のマッピング【検討案】

- 改修・新築段階でなくとも可能
- 取り組み範囲と参画者の多様性・可能性
- 施設整備に終わりはしない

施設整備の内容	長期計画的 専門業者	構想・計画・設計・施工			使いはじめ	使いこなし	カスタマイズ	改修	建替
		建築工事	→						→
内装・設備工事	→						→		
家具・教室レイアウト				→			→		
家具・什器を変える				→			→		
DIYで変える				→			→		

使い方ワークショップ

学校・大学・設計者の協働

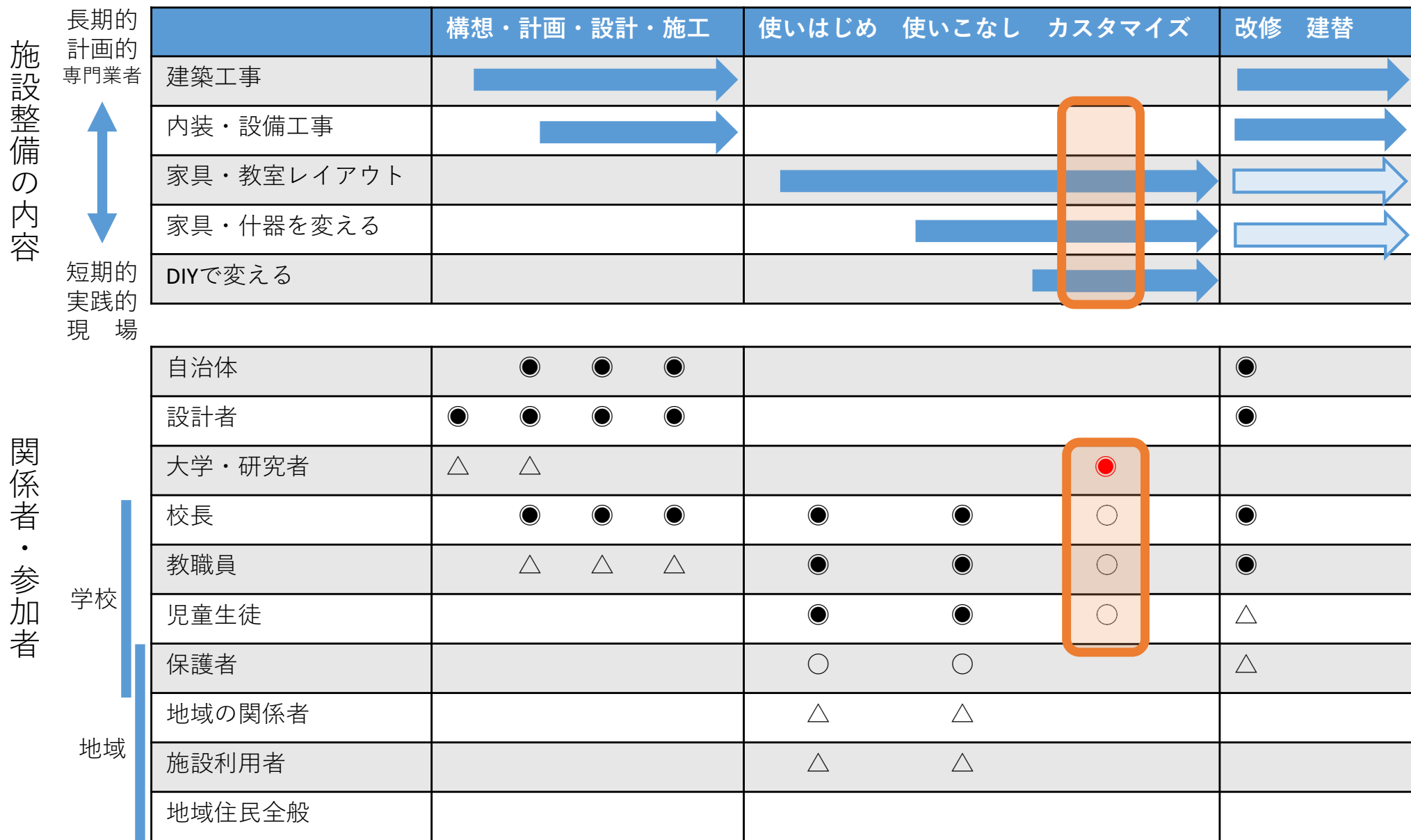
関係者・参加者	学校	構想・計画・設計・施工			使いはじめ	使いこなし	カスタマイズ	改修	建替
		自治体	●	●	●				●
設計者	●	●	●	●	●	○	●		
大学・研究者	△	△		●	●	○			
校長	●	●	●	●	●	○	●		
教職員	△	△	△	●	●	○	●		
児童生徒				●	●	○	△		
保護者				○	○		△		
地域の関係者				△	△				
施設利用者				△	△				
地域住民全般									

# 取組のステージと参画のマッピング【検討案】

## 東京学芸大学附属竹早中学校

教室そのものを変える試み  
生徒のアイデアで空間づくり

- 改修・新築段階でなくとも可能
- 取り組み範囲と参画者の多様性・可能性
- 施設整備に終わりはしない



# 取組のステージと参画のマッピング【検討案】

広島県 府中市立栗生小学校

コミュニティ・スクール・ルーム

保護者/地域住民との協働、児童が施工にも参加

- 改修・新築段階でなくとも可能
- 取り組み範囲と参画者の多様性・可能性
- 施設整備に終わりはしない

施設整備の内容	専門業者	構想・計画・設計・施工				使いはじめ 使いこなし カスタマイズ			改修 建替		
		長期	中期	短期	即時	長期	中期	短期	即時	長期	短期
建築工事	●	→								→	
内装・設備工事	●	→								→	
家具・教室レイアウト					→	→	→	→	→	→	→
家具・什器を変える						→	→	→	→	→	→
DIYで変える							→	→	→	→	→

関係者・参加者	学校	地域	構想・計画・設計・施工				使いはじめ 使いこなし カスタマイズ			改修 建替	
			長期	中期	短期	即時	長期	中期	短期	即時	長期
自治体			●	●	●					●	
設計者			●	●	●	●	●	●		●	
大学・研究者			△	△							
校長	●		●	●	●	●	●	○	○	●	
教職員	△		△	△	△	●	●	○	○	●	
児童生徒						●	●	○	○	●	●
保護者						○	○	●	●	●	●
地域の関係者						△	△	●			
施設利用者						△	△				
地域住民全般											